



国立大学法人

長崎大学

NAGASAKI UNIVERSITY

平成22年10月 1日

**原子力・放射線に関する教育職員セミナー（応用コース）
地域別体験コース（九州地区・長崎大学）プログラム**

【日時】 10月2日（土）・3日（日）

【場所】 長崎大学先端生命科学研究支援センター
（アイソトープ実験施設：長崎市坂本1-12-4）

【主催】 文部科学省

【後援】 長崎県教育委員会・長崎市教育委員会・全国高等学校長協会・全日本中学校長会・全国連合小学校長会・日本理化学協会・全国中学校理科教育研究会・全国中学校社会科学教育研究会・全国小学校理科研究協議会・全国小学校社会科学研究協議会

【概要】 原子力を含めたエネルギーに対する理解の促進を図ることを目的として、小・中・高等専門学校および特別支援学校の教育職員等を対象に「原子力・放射線に関する教育職員セミナー（応用コース）地域別体験コース」を開催する

【問い合わせ先】

長崎大学先端生命科学研究支援センター

アイソトープリソース開発分野 松田尚樹 TEL:095-819-7163

原子力・放射線に関する教育職員セミナー（応用コース）
地域別体験コース（九州地区・長崎大学）
プログラム

10月2日（土）

9：45～

受付

10：00～10：15

開会・オリエンテーション

1. 授業の材料を集める

10：15～11：15

【導入】「富士山について教科別に説明しよう」

郡山 一明（財）原子力安全研究協会放射線災害医療研究所所長）

馴染みが薄い「放射線」を、日常的なものに置き換えて理解することの試みとして、まずは「富士山」を教科別に考えてみることから始めます。

11：15～12：30

【講義】「放射線の科学」

松田 尚樹（長崎大学先端生命科学研究所研究支援センター
放射線生物・防護学分野長 教授）

12：30～13：30

昼食・休憩

13：30～15：00

【実験】「放射線を視る、放射線を出しているモノを捕まえる」

松田 尚樹

- ・霧箱で放射線を視てみます。
- ・掃除機で空気中の放射性物質を捕まえてみます。

2. 授業実践事例紹介

15：15～15：45

【実践事例紹介】

「原子力とエネルギーに関する正しい理解と考える力を高める取り組み」

三好 啓介（長崎県立猶興館高等学校教諭）

原子力や放射線に関する教育の授業計画の立案に取り組みされている教員の方に授業の紹介をしていただきます。

16：00～17：00

【特別講演】

山下 俊一（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科長）

WHO（世界保健機関）放射線プログラム専門科学官のご経験をもつ長崎大学大学院教授より、長崎からの放射線医療への取り組みや国際貢献に関する現状などについてお話していただきます。

10月3日(日)

3. 施設体験

長崎大学では、国内外の被爆者の治療および健康診断をはじめ、チェルノブイリやセミパラチンスク地域の医療支援を積極的に行っており、2003年に永井隆記念国際ヒバクシャ医療センターが開設されてからは、さらなる国際貢献に努めています。

今回は、体内に摂取された放射性物質の量を体外から測定する装置（ヒューマンカウンタ、全身カウンタ）やそれらの施設を見学していただき、放射線が医学分野にどのように利用されているのかを実感していただきます。

1. 非密封核種を用いた遮へい効果、距離による放射線の減弱などの体験型実習
2. 放射線測定機器見学および測定体験
3. 核医学施設等見学

9:00~10:30 【実習および見学】
RI実習およびRIセンター管理区域内見学

10:30~11:30 【施設見学前の講義】
工藤 崇（長崎大学医学部原爆後障害医療研究施設放射線障害解析部門
放射線応答解析研究分野教授）

11:30~12:30 昼食・休憩

12:30~13:30 【施設見学および体験】
A班：ホールボディカウンタ
森田 直子（長崎大学医歯薬学総合研究科放射線応答解析分野技術職員）
B班：病院見学 工藤 崇

13:30~14:30 【施設見学および体験】
A班：病院見学 工藤 崇
B班：ホールボディカウンタ 森田 直子

4. 授業を作る

14:30~16:00 【ワークショップ】
郡山 一明（(財)原子力安全研究協会放射線災害医療研究所所長）

「生活に放射線はどのように利用されている？」を児童・生徒とともに考える方法とは？
☆グループ毎の発表形式で行います。

16:00~16:20 質疑応答

16:20~16:30 アンケート回収・閉会

※都合により内容・時間等を変更する場合があります。